

長期保全計画に基づく平成30年度上期設備保全の実施状況

1. 平成30年度の主な設備保全実施項目

平成30年に実施する主な設備保全予定項目と内容は、表1のとおりである。

大型切断装置の可動式ケーブルベア及び信号ケーブル劣化更新、鉄心コイル破砕機、素子破砕機の主軸ユニット交換などの解体分別設備の劣化部品機器の更新、洗浄設備ガス検知器センサー更新及び換気空調設備PLC通信用コネクタ交換、水熱設備の弁の更新及び分解点検及びNo.1,2の反応器底部高圧給水ラインに調整バルブの設置、冷水配管のライニング配管への更新、DCS更新を実施完了した。分析計装設備については11月に全て完了する予定である。

別紙1に平成30年度の主な設備保全実施項目を添付する。

表1 平成30年度の主な設備保全実施予定項目

設備名		実施時期	設備保全の内容
①	解体分別設備	H30年5月～6月	経年劣化が進行している大型切断装置の可動式ケーブルベア及び信号ケーブル劣化更新、鉄心コイル破砕機、素子破砕機の主軸ユニット交換、平成30年度末で部品供給できなくなるインバータ制御装置9台の交換およびセル内電動機9台の更新を実施した。
②	洗浄・換気設備	H30年5月～6月	洗浄設備ガス検知器センサー71台分の更新、換気空調設備PLC通信用コネクタ14面32箇所交換した。
③	水熱分解設備	H30年5月～9月	平成29年度の点検結果より劣化の進行している圧力調整弁6台、酸素流調弁3台の更新及び、自動弁・手動弁の分解点検整備(60台)を実施した。なお、No.3系の圧力調整弁2台及び酸素流調弁1台は、現場調査の結果、建物上部の梁を一時撤去する必要が生じたため、当初計画より時期を変更して行った。 反応器底部腐食減肉対策の底部給水ラインについて、反応器長期停止時の閉塞対策及び流量バランスを取ることで安定給水が図れるよう高圧給水ラインに調整バルブを設置する改善工事はNO.1及びNO.2系は完了した。NO.3系は来年度以降、実施の計画。
④	排気設備	H30年5月～6月	冷水配管の腐食劣化が進行しているオイルスクラバーコンデンサ解体GB系統、予備洗浄系統をライニング配管に更新した。
⑤	計装設備	H30年5月～6月	情報セキュリティ対策及びリン含有PCB油処理実機設備設置の制御ロジック構築のためDCS更新工事を実施した。
⑥	分析計測設備	H30年5月～11月	信頼性を必要とする重要機器の劣化対策として排気モニタリング装置1台更新完了した。溶剤サンプリング装置3台については現在更新中で11月完了予定である。

なお、計画外で実施した補修工事は特になし。